



新治小学校だより

学校教育目標：ひびく心 はずむ体 見つめる目

～新治のよさを持続して活かしながら、

よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指して～

令和元年度

2月号

令和2年1月31日

「生き方を学ぶ」

副校長 板橋 典子

大寒を過ぎ、暦の上では1年で最も寒い季節になりました。先日の縄跳び大会では、寒い中、多くの保護者の方にご声援をいただきました。子どもたちの健康面、精神面でご家庭のご協力をありがとうございます。

学校は子どもたちが、よりよい社会をつくるための「生き方を学ぶ」場です。横浜市ではその実現に向けて、教職員の資質向上のために研修を行っています。その一部をご紹介します。

事務連携組織会議：事務職員が集まり、予算や施設管理など専門職としての視点で危機管理、施設管理、会計などについて情報を共有し、よりよい改善を図ります。

教員（校外研修）：他校で行われる「教科担任制の取り組み発表」に、代表の教員が参加します。横浜市では「教科担任制」を推進していますが、本校でも音楽や家庭科など高学年中心に教科担任を行い、小規模校で実現できる策を検討しています。

教職員（校内研修）：さとやま交流センター、NPO法人「NORA」、横浜市教育文化研究所の方々を講師として迎え、「ビオトープ」の持続可能な活かし方について学んでいます。

さて、本校のビオトープは、子どもたちから「ふれあい池」という名前で親しまれていますが、このたび※SDGs推進の一環として整備を始めました。外部講師の島村さん、石川さんのご協力で、環境委員会の子どもたちと池の生き物を一旦保護したところでした。梅田川の生き物や植物が生息するビオトープを通して、子どもたちはもちろん、地域の方にもふれあいの場所になればと考えています。SDGsの目標のラスト、17番目は、「パートナーシップで目標を達成しよう」です。本校も学校・家庭・地域が世代を超えたパートナーシップを発揮して連携し合うことで、ますます良い学校・地域になるよう取り組みを進めてまいります。今後も皆様のご協力をお願いします。



子どもが進む道は様々で、舗装された道路ばかりではありません。困難に出会ったとき、どう進めばよいのか解決策を見いだすことができる力、それを身につけることが「生き方を学ぶ」ことです。大人は、自分の経験から子どもが進みやすいように道を整備しがちです。大切な支援はどうやって道を進むのか、自力で解決する能力を身につけられるようにすることです。やがて子どもが社会に巣立つと、その力が役に立つときが必ずやってきます。「見守って励まし、解決へ導く支援をする」ことは、言葉にすると簡単ですが難しいことです。私たち大人の力も問われています。

※SDGs（Sustainable Development Goals・持続可能な開発目標）は、2015年9月の国連サミットで採択され、2030年までの行動計画に掲げられた国際社会全体が達成すべき目標です。「誰一人取り残さない」を基本理念とし、貧困や飢餓の撲滅、エネルギー問題や気候変動への対応に加え、平和で公正な社会構築などをパートナーシップで実現していくといった17のゴールと、その達成に向けた169のターゲットで構成されています（横浜市庁内報より抜粋）。